

特集 石岡の『すごい!』 畜産農家 さん

首都圏から近く、豊かな自然に恵まれている茨城県。農林水産省が発表した平成30年都道府県別統計では農業産出額は全国3位、畜産産出額においても全国6位を誇る、全国でも有数の農業県です。

では、石岡市は県内においてどうでしょうか。
同じく農林水産省が発表した平成30年市町村別統計では、農業産出額は県内7位、畜産産出額は県内3位と、茨城県の中でも盛んなのです。

県内外から信頼が寄せられる

石岡鈴木牧場

牛の健康を第一に考える酪農

石岡鈴木牧場では、子牛まで含めて約60頭の牛を飼育。一般的な酪農家と比べて頭数が少ないのは、良質な牛乳づくりのため、健康に牛を飼う取り組みを実施しているから。

石岡鈴木牧場では土づくりから始まります。良い堆肥づくりのために約10年もの歳月をかけて試行



▲石岡鈴木牧場の牛も健康だからとて1頭1頭長生き。1頭1頭の名前もあります。

錯誤をし、現在の良質な牧草が育つ土へと変わっていったそう。この飼料を食べて牛は健康に育ち、牛乳は美味しくなります。この牛乳で作られるヨーグルトやチーズも大人気。他では作れないこだわりの乳製品は、県外から求めに来る人も多くいます。



▲購入者からピンを回収し、消毒してから再利用。環境に良い取り組みも15年以上前から続けています。



▶左から鈴木美登里さん、健土くん、昇さん、ともえさん

「食べるものから健康に。」

それは人も牛も同じです」

そう話すのは鈴木ともえさん。そして「多くの人に食の安全を知ってもらいたい」と願いを話します。健康を追求し、牛にも人も良いものを作ることにこだわり続ける石岡鈴木牧場だからこそ、全国から信頼が寄せられています。

茨城の養豚を牽引する 武熊牧場

新銘柄豚「常陸の輝き」の生産

武熊牧場では、これまで育成してきた銘柄豚「武熊たくま豚」に加え、県が新たに開発に取り組み、平成30年に販売がスタートしたばかりの新銘柄豚「常陸の輝き」を育成しています。

「常陸の輝き」の生産農場は、

武熊牧場を含め県内7か所のみ（1月1日現在）。代表の武熊俊明さんは新ブランドの研究・開発から携わり、確立に大きく貢献。現在は「常陸の輝き推進協議会」の副会長を務め、活躍されています。



▶左から武熊浩美さん、俊明さん、真史さん

今回は、市内で酪農・養豚・養鶏を営む農家さんに、それぞれ行う特色のある取り組みや、生産者としてどんなこだわりがあるのかを伺いました。

そこには、全国に誇れるたくさん「すごい！」がありました。

石岡で農業、始めてみませんか？

市では、これから就農を希望する人への支援を行っています。農業に興味がある、実際に農業をやってみたいなど、まずはお気軽にご相談ください。

農政課 TEL.43・1111
(内線1145)



▲大きな特長は、筋肉内に旨味のある脂肪が多くついていること。肉は柔らかく、1日置いたり、冷めたりしても固くなりません。

「人に見せられる農場」

こだわりについて俊明さんはそう答えます。武熊牧場には衛生管理が行き届いた豚舎が並びます。それを証明するのは、豚舎特有の臭いの少なさや見た目だけではありません。農林水産省で推進する、数ある衛生環境の基準をクリアすることで認証される「農場HAC

CP（ハサップ）」の認証農場でもあるのです。先頭に立って取り組んだのが武熊眞史さん。専門の指導員のもと、約2年間の取り組みの末に、一昨年認証されました。茨城県が全国に誇るブランド豚が、誰が見ても安心・信頼できる、この武熊牧場で育っています。

平飼卵と絶品お菓子で人気のむらファーム

全国でも数少ない「平飼卵」

約8000羽の鶏を飼育し、一日約5000個の卵を生産するのむらファームでは、全国でも数少ない養鶏農家しか行っていない「平飼卵」で飼育しています。鶏が小屋の中を自由に動ける環境で飼育する方法で、健康にもよく、産む卵も美味しくなりますが、一般的なケージ飼いと比べて、飼育

にかかる手間は増え、管理も容易ではありません。

のむらファームでは、代表野村禪さんの父正さんの代から、どうすれば決まった場所に卵を産んでくれるかを約10年間研究。餌や水飲み場所、巣箱の位置などの調整を重ねました。「うちの形が一番良い形でしょう」と禪さんは自信を持って話します。

6次産品も1次産品があつてこそ

ここで採れた卵はもちろん、この卵を使ったカステラなどのお菓子も大人気。妻の直美さんの趣味がきっかけで始まったお菓子作りは、平飼卵がどれほど美味しい



▶野村禪さん

かを伝えてくれます。
「鶏と人間、

共に健康に生きられること」

大切にしていることについて、禪さんはそう答えます。鶏が健康だから良い卵が産まれる。人間が健康だから鶏の健康を守る。どれだけ人気になっても、品質を落とさないために「共生」を第一に考えることは変わりません。

また、直美さんは県から認定された女性農業士。ご夫婦で活躍するのむらファームで、平飼卵の魅力を知ることができます。



▲絶品のカステラやプリン、ロールケーキも、この卵からこそ！